

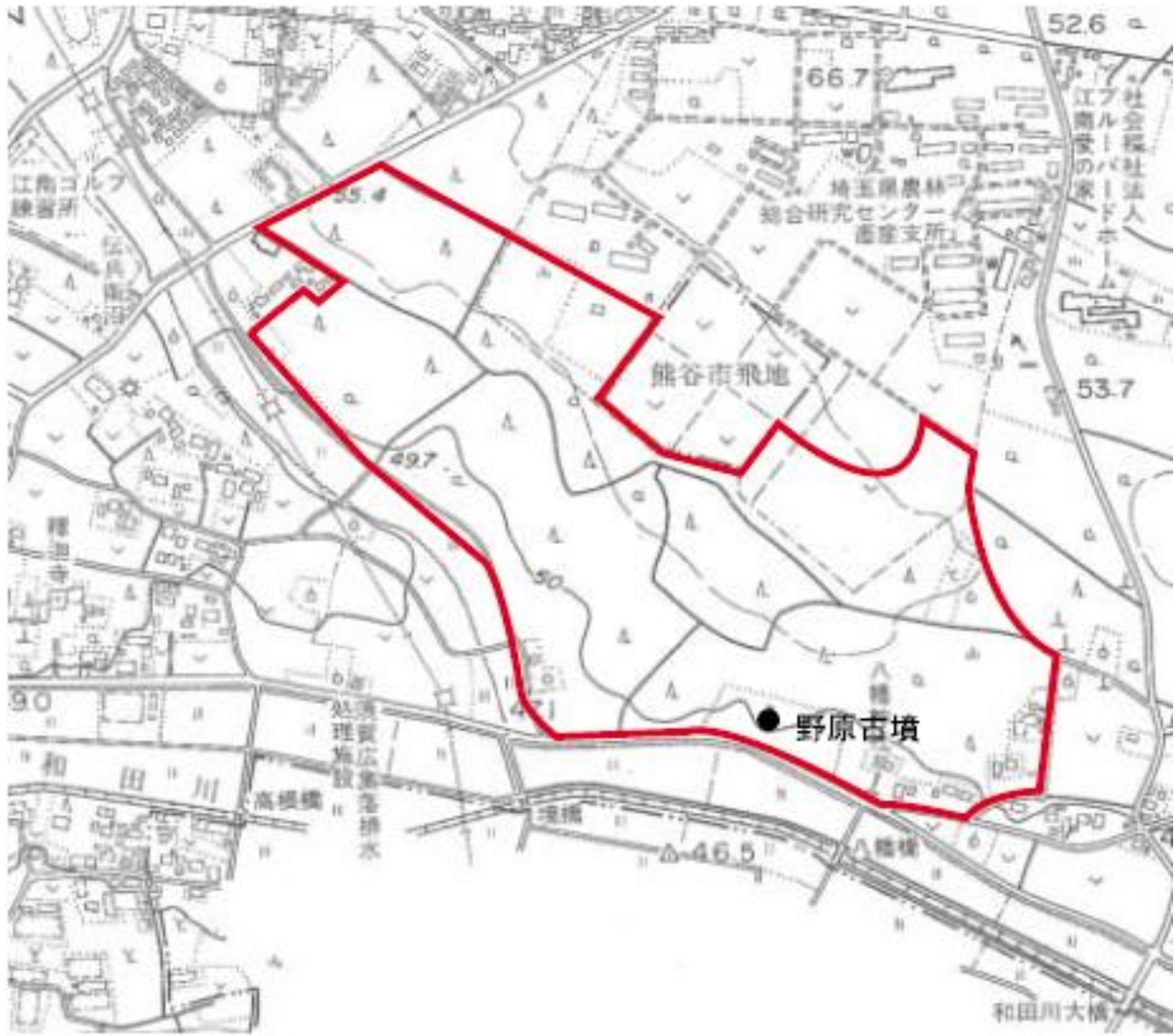
野原古墳群(熊谷市) 「踊る埴輪」を出土した

八幡神社/この裏山の西方に古墳が広がる







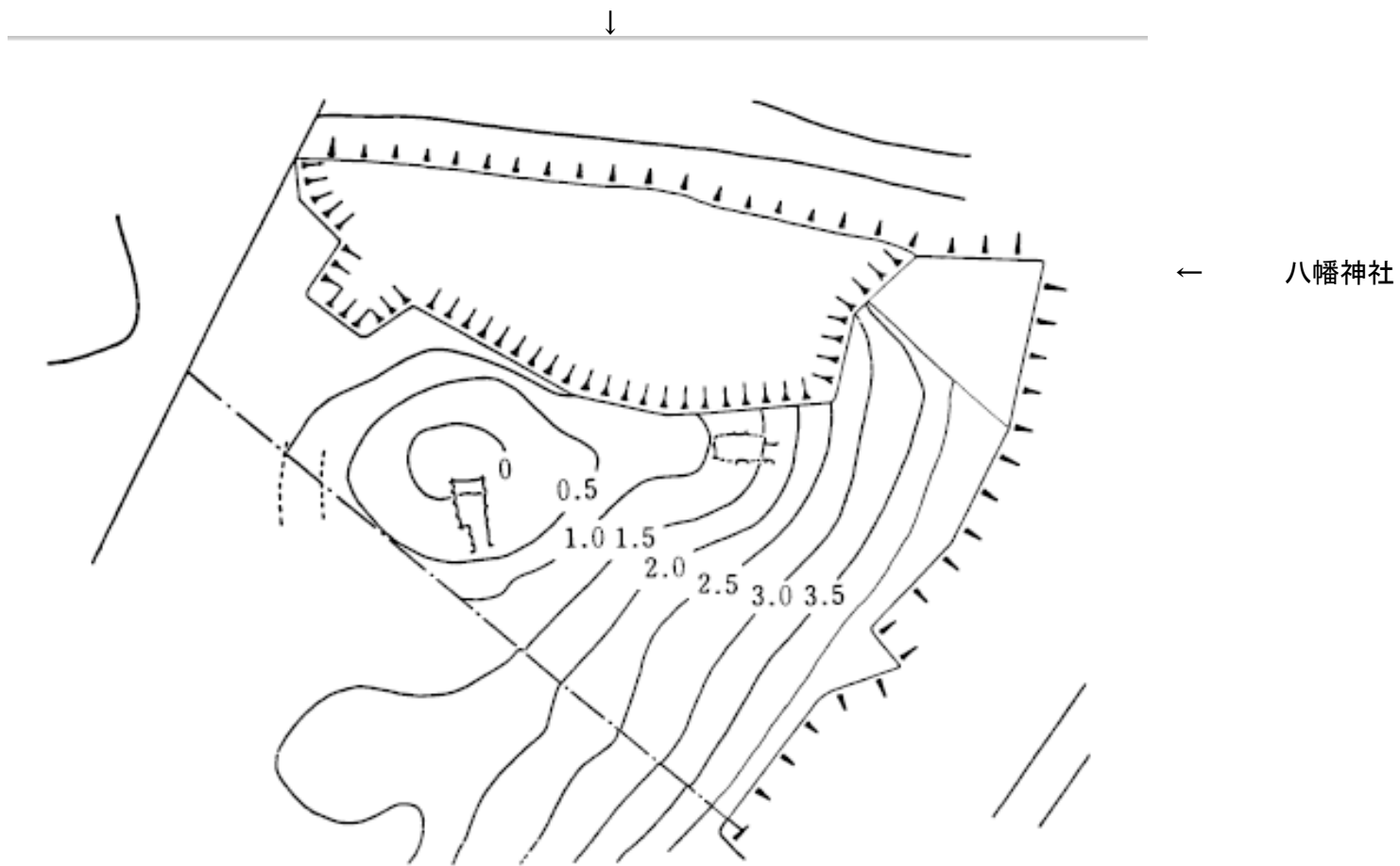


← 八幡神社

第1図 遺跡の位置 (1/20,000)

インターネットより

↑



第2図 「野原古墳」測量図

インターネットより



八幡神社と野原古墳群

所在地 熊谷市 野原

八幡神社の祭神は誉田別命で、御神体は御鏡と奇石である。創立年代は不明であるが、寛永二十年（一六四三年）、時の領主稲垣安芸守の崇敬厚く、侍臣田村茂兵衛に命じて社殿の造営に当たらせたことが社伝の棟札に記されている。

また、宝暦十一年（一七六一）、時の領主前田半十郎が家臣、内貴与左衛門をして本殿（内宮）の工事を監督させたことも別の棟札に記されている。前田氏からは、明治維新に至るまで毎年神社への御供米一斗二升が献納されていたという。

社前にある一對の石灯籠は、天保三年（一八三二年）前田信知の後室が「武運長久、家士安穩、采地村民安全」を祈願し献納したものである。

なお、八幡神社裏から西方にかけて、野原古墳群と呼ばれる古墳群が分布している。

荒川の支流和田川に面した南傾斜の小高い丘にある古墳は、昭和初年には三十余基を数えたが、開墾や採土等により損壊され、今は二十数基を残すのみである。

有名な「踊るはにわ」（昭和五年出土、国立博物館蔵）が出土した前方後円墳も神社西方にあったが、現在は開墾されて桑畑となり、その跡をとどめていない。

これらの古墳の築造は、六世紀後半から七世紀前半にかけて行われたものといわれ、当時、この地方にかなりの勢力をもった豪族が居住したことを物語っている。

平成十一年十二月

埼玉県



平成八年に失火により、文化財であった社殿が消滅し、その後に現在の社殿が再建されたという





境内社









八幡神社後方の古墳域







「踊る埴輪」が出た前方後円墳(13号墳)の方向を見る





前方後円墳(13号墳)は削り取られてしまっていて、今は土砂取掘場となっているとのこと/写真の更に右手が八幡神社



この辺りが削り取られてしまった部分であろうか



境内から入口方向を見る





写真のさらに右手が神社部分



例によってこんな石造供養塔が立ち並ぶ



「踊る埴輪」のレプリカ



インターネットより

参考ホームページ

<http://blog.goo.ne.jp/daidi/e/bbac81fc6eea22ae1d195ec2475f5f74>

<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/kounanmatinoiseki/iseki5.pdf>

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/65_knan/nohara.html

